

参加無料
(事前申込制)オンライン
配信若者の生きづらさと
薬物依存症

～介入と支援の方法について考える～

現代社会において、若者の市販薬をはじめとする薬物依存問題は、日々深刻化しています。その背景には、若者が直面する様々な生活上の困難や生きづらさがあります。本シンポジウムでは、現在回復し支援者として活動される方々の体験談を聞くとともに、様々な職域や支援者の視点から、そうした問題への具体的な介入方法と支援策について考えます。

日時 令和6年 2月27日 火

18:00～開始

開催方法

Zoomウェビナーによる
オンライン開催

視聴定員

1,000名

主な聴講対象者

薬事関係者(薬剤師、登録販売者等)、教育関係者、
未成年の保護者、青少年相談窓口担当者、
自治体関係者など

参加
無料事前
申込制

プログラム

内容	時間	テーマ/登壇者
挨拶	10分	厚生労働省、文部科学省挨拶 厚生労働省 社会援護局障害保健福祉部 文部科学省 総合教育政策局
基調講演	20分	依存症の理解/近年の若者の薬物依存について 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也氏
パネル	15分	①「薬局の目線から」(防ぐ) 薬剤師 堀 美智子氏
	15分	②「未成年保護の目線から」(気づく) 特定非営利法人BONDプロジェクト代表 橘 ジュン氏
	15分	③「少年相談機関の目線から」(支える) 福岡県警察本部少年課少年サポートセンター 森 治美氏
体験談と 現場の声	30分	自身の体験談(依存症に至った経緯、本当に必要とした支援、支援現場の実情など) ①BONDプロジェクト支援者 れいあ氏、さくら氏、せな氏 ②千葉ダルク職員 田畑 聡史氏
パネル ディス カッション	35分	～支援～<トークテーマ> 「生きづらさを抱えた「若者」に 大人ができること～ 防ぐ、気づく、支えるの3つの視点から」 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也氏 ●防ぐ 薬剤師 堀 美智子氏 ●気づく 特定非営利法人BONDプロジェクト代表 橘 ジュン氏 ●支える 福岡県警察本部少年課少年サポートセンター 森 治美氏
質疑応答	5分	同上

参加
方法

①インターネットの場合 下記URLのお申し込みフォームよりお申し込みください。.....

<https://jp.smktg.jp/public/application/add/1220>②FAXの場合
本チラシの裏面申込欄に必要事項をご記入いただき、FAX.03-3545-1125 にお送りください。

登壇者



国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所薬物依存研究部
心理社会研究室長

嶋根 卓也

1974年生まれ。東京薬科大学薬学部卒業、順天堂大学大学院医学研究科修了。薬剤師、医学博士。専門は公衆衛生学・疫学。薬物乱用・依存に関する全国調査を担当するほか、中高生を対象とした予防教育、少年院の薬物プログラムにも従事。厚生労働省「医薬品の販売制度に関する検討会」の参考人。



薬剤師

堀 美智子

名城大学薬学専攻科修了。名城大学薬学部医薬情報室、帝京大学薬学部医薬情報室勤務後1998年より医薬情報研究所(株)エス・アイ・シー設立に参加。八王子にアンテナショップとして開設した公園前薬局を運営しながら、医薬情報を発信することを業務とし、各種データベースの作成や書籍作成に携わっている。1995年からラジオNIKKEIでパーソナリティを務めている。



特定非営利法人BOND
プロジェクト代表

橋 ジュン

NPO法人BONDプロジェクト代表。ルポライター。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支えるNPO法人BONDプロジェクトを設立。虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう女の子の声を聴き、講演・イベントなどで情報を伝え、必要に応じて専門機関へ繋ぐ活動を展開。行き場がなく困っている目の前の女の子のために街のパトロールや保護の活動も行う。



福岡県警察本部少年課
少年サポートセンター

森 治美

公認心理師、臨床心理士。平成13年より福岡県警少年育成指導官(公認心理師や社会福祉士等の資格を有する少年相談の専門職員)として警察署にて少年相談業務に従事した後、平成15年から現在まで、福岡県警の少年相談専門機関である少年サポートセンターにおいて、主に少年相談、立直り支援、広報啓発活動、街頭補導を行っている。

参加方法

①インターネットの場合 下記URLのお申し込みフォームよりお申し込みください。.....

<https://jp.smktg.jp/public/application/add/1220>

②FAXの場合
下記申込欄に必要な事項をご記入いただき

FAX.03-3545-1125

にお送りください。



若者の生きづらさと薬物依存症 ～介入と支援の方法について考える～

参加申込書

貴氏名	ご所属	依存症に関わる立場(あれば)
(代表者名)		☐ 行政 ☐ 教育 ☐ 医療 ☐ 福祉 ☐ 当事者・家族 ☐ 回復施設 ☐ アディクション関連団体 ☐ 医薬品販売関係 ☐ 学生 ☐ 一般 ☐ 報道 ☐ その他()
		☐ 行政 ☐ 教育 ☐ 医療 ☐ 福祉 ☐ 当事者・家族 ☐ 回復施設 ☐ アディクション関連団体 ☐ 医薬品販売関係 ☐ 学生 ☐ 一般 ☐ 報道 ☐ その他()
		☐ 行政 ☐ 教育 ☐ 医療 ☐ 福祉 ☐ 当事者・家族 ☐ 回復施設 ☐ アディクション関連団体 ☐ 医薬品販売関係 ☐ 学生 ☐ 一般 ☐ 報道 ☐ その他()

※複数名でのお申し込みの場合は、全員分のお名前をご記入ください。

お住まい もしくは 所属先の 都道府県	都・道 府・県	TEL	
		FAX	
E-Mail ※必須(正確にご記入ください)			

個人情報の取扱いについて

本セミナーの参加申し込みで取得する個人情報は、本事業の委託業者(株式会社時事通信社)の内部規則に基づき厳重に管理し、本セミナーに関するご案内・ご連絡、及び関連情報提供のために利用します。<https://www.jamp.jiji.com/sympo/pp/>

【お問い合わせ先】依存症の理解を深めるための普及啓発事業 事務局(時事通信社内) 〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8

TEL 03-3524-6087 FAX 03-3545-1125 E-mail all-about-izonsho@jiji.co.jp